

## 授業改善・学力向上に向けて

研究推進委員会

毎年、本市では1・2年生を対象に「あまっ子ステップ・アップ調査」が行われている。一人ひとりに応じた指導の充実や学習状況の改善を図ることを目的として、学習指導要領に示されている目標や内容に照らしたテスト形式の全国共通の問題で、基礎的・基本的な内容（約70%）、発展的な内容（約30%）の定着度を調査するためのものである。全国の総受検者を得点順に25%ずつA～D層に分けて分析を行っている。本校では、どの層にどれだけの人数がいるかを表した割合は、令和3年度の2年生において、1年生の時と比べ、2つの教科ではA層の割合がプラスになっているが、3つの教科ではマイナスになっている。学校や家庭において、学習内容が定着するまで反復学習することや、「考え、まとめ、伝える」といった学習過程の徹底に課題が見られた。

学力向上に向けて、各教員の授業力の向上を目指すとともに、一人ひとりに応じたきめ細かな指導と基礎学力の向上に向けた取組が必要である。

まず、朝学習の時間を用いた「コグトレ」や教科ごとの復習プリント、放課後のチャレンジ・スクールなどを充実させていく。放課後のチャレンジ・スクールでは、定期テスト前の一定期間、各学年の放課後学習と連携し、チャレンジ・スクールに通っていない生徒でも、放課後学習に参加して、わからないところを大学生や教員に質問することができる体制を整える。

特にC～D層については、特別支援教育支援員や学習支援員の活用により、授業において個に応じたきめ細やかな支援を行っていく。また、3学年の数学科と英語科、2学年の数学科においては、兵庫型システムによる少人数学習を実施し、個別最適な学びを実現していく。

そして、校内研究を進め、『共同的に探究する学習』、いわゆる、グループで「相談」したり、「考えを共有」したりする活動を取り入れることにより、他の人の考えを知ったり、自分の思考の手助けになるように取り組む。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図り、全教員が共通理解のもとで取組を進めていく。目指すのは、「できる学力」ではなく、「わかる学力」の育成である。

このような取組を行うことで、今年度の「あまっ子ステップ・アップ調査」では、A～B層の割合が5教科ともにプラスになるよう、確実な学力向上をめざして学校を上げて取り組んでいきたい。

今後、「あまっ子ステップ・アップ調査」の結果が戻ってくる2月以降に、自校の結果分析を研究推進委員会、ICT推進担当、各教科会にて行い、次年度の授業で生徒のどんな力を伸ばすか指導方法の工夫改善を図るために検討する機会を持つようにする。これによって、年ごとに「あまっ子ステップ・アップ調査」を基にして、教員の授業改善がなされるような体制を作っていきたい。